

総評

質問

回答

	<p>企業訪問の結果をどう業務に反映させているのですか？</p>	<p>現在、データベース作成中です。基盤先導等の研究に反映させる予定です。</p>
<p>A委員</p>	<p>データベースは一般に公開するのですか？</p>	<p>企業さんの立場も考慮して、所内のみと考えております。</p>
	<p>企業ニーズの把握は何回か訪問しないとできないと思います。ここ一年で状況は変わっています。研究員を責めているわけではありません。課題として取り上げる前の検討が大事であると思います。</p>	
<p>B委員</p>	<p>相対的に問題はありません。廃棄物処理は内部だけでなく、岩大など外部にも声をかけるなどして欲しいと思います。そうすれば大学にとってもよいことになると思います。</p>	
<p>C委員</p>	<p>研究員には敬意を表します。超伝導の研究は夢があるので、岩手の企業と是非研究をして欲しいと思います。超硬合金は新製品や金型など将来に期待できるので、企業などとタイアップし成果を出してもらいたいと思っています。廃プラの応用も一日も早く達成して欲しいと思います。</p>	
<p>D委員</p>	<p>企業訪問と研究時間のバランスをきちんと取ってほしいと思います。また、岩手には鋳物という看板があるので、大事にするためにも古くさいイメージをぬぐいさって、レベルアップをして欲しいと思います。</p>	
<p>E委員</p>	<p>工技センターはかけ込み寺として、これからも指導願いたいと思います。岩手から新しい物を産み出すためにも研究できるスタッフの育成も必要だと思っています。そのためにもセンターの発表に社員を派遣するなどしてセンターを活用したいと思います。地元企業のバックアップとしてセンターには貢献してほしいと思います。</p>	
<p>F委員</p>	<p>発表テクニックはかなり良くなっていて分かりやすく結構でした。終了テーマについては、いずれも具体的成果が出ているようなので、商品化とPRに努められたい。「研究は成功したが企業間の関係で商品化できない」という件がありましたが、これは何とかすべきです。事前評価のテーマはいずれも説明不足でした。予算要求・査定の場合であったならば評価は低いでしょう。指摘が多かったように鋳物研究の脱皮は必要です。超伝導研究からの撤退方針は残念です。企業訪問とデータベース作りなどは、以前から職員の皆様が努力されてきていることであり、そういった従前の流れも見ながら士気を高めるような舵取りをお願いしたい。</p>	
<p>G委員</p>	<p>産総研東北センターは環境分野でナショナルセンター化を目指しています。岩手のセンターの研究方向が循環型社会の確立に向いているのはよいと思います。ですが、研究体制は1テーマ当たりの人員が少ないので、他機関の利用など、体制強化を考えてほしいと思います。産総研も協力していきたいと思っています。</p>	
<p>産振課長</p>	<p>企業訪問の結果はH15年度のテーマに反映予定です。国に提案するものは提案していきたいと思います。また、大学との連携も重要であり、産総研プロジェクト化も検討したいと考えております。</p>	
<p>所長</p>	<p>超伝導の評価がばらつく結果となりました。今後一年以内に結果を出したいと思います。鋳物や廃棄物については、岩手ブランド、岩手らしさというものをセンターとして追求していきたいと思っています。データベース等を具現化して具体的成果に結びつけたいと思います。</p>	